

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階)

事業所番号	2770801203		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	グループホーム いこいの守・東住吉 1階		
所在地	大阪府大阪市東住吉区住道矢田7丁目12番32号		
自己評価作成日	令和6年3月17日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いに少しでも寄り添いながら、安心して穏やかな生活を送れるように支援しています。四季折々の花や野菜を見て食べて、四季を感じて頂きたい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人アミコ株式会社が事業母体であり、平成16年4月1日に開設され令和6年で20周年を迎える。事業所周辺は住宅・畑が点在し近くに公園や神社があり環境の良い立地にある。散歩や買い物時に地域の方と挨拶を交わして 事業所の福祉施設としての地域住民の認知度は高い。地域交流でふれあい喫茶に出かけ、夏祭り、敬老会などへ利用者と共に参加している。コロナ禍で自粛の時期もあったが、囲碁・将棋などを楽しみ、近隣の託児所の子供の訪問などもあり、菜園の水やりや芋ほりに子供たちとの交流があり、利用者の笑顔に繋がっている。事業所内では季節行事やレクリエーションを行い楽しく生活リハビリが出来る工夫をしている。職員間のコミュニケーションは良好であり意欲的に意見交換し「ケアの質向上・家庭的な雰囲気」で穏やかに過ごせる環境づくり」に取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・信愛・憩い」の法人での基本理念を基に「初心忘れず・毎日笑顔で・寄り添う介護」を目指し、心掛けています。	事務所入り口と各ユニットに理念を掲示し利用者と職員、面会者が常に目にて確認している。朝・夕の申し送る時に理念の唱和を毎回はしていないが定期的に行っている。管理者や職員から伝達事項や理念に沿った気付きなどの意見交換も行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流の場が再開はして知っていない。同じ事業所内の託児所の子供たちと交流する機会があり入居者様もほっこりされていた。	町会に入っており近所の町会長がふれあい喫茶・囲碁・将棋の再開など地域の催しなど情報をポスティングや伝えに来ている。昨年の夏祭り・敬老会は人数等限定で参加している。近隣託児所の子供が訪問してフロアで利用者と交流したり、敷地内の野菜畑に水やりや秋には「さつま芋堀り」に来てくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年の5月より対面での会議を再開しました。地域包括、地域の会長さんや女性部長さんが参加くださり、直接お会いして話を聴く機会が来ています。家族様にも参加して頂けるよう働きかけをしようと思います。	運営推進会議は定例化し偶数月第4水曜日夜方に行い、地域包括支援センター・地域の会長・地域女性部長が参加しているが家族の参加は無い。議事録は会議メンバーにポスティングし会議記録は事業所玄関口で開示している。家族は面会時に記録を閲覧するが全員に郵送していない。会社が「アミコ通信」を発行各事業所の活動報告を家族に行っている。		
5	(4)	○市町村との連携	担当ケースワーカーとは必要な時のみ連絡を取っています。	市の介護保険課へは電話や更新手続きはコロナ禍で書類等を郵送している。区の生活福祉課は係わりのある利用者対応のため、担当者の訪問や電話があり生活状況等を報告している。市からは感染対策で抗原検査キットやSPO2(酸素飽和度測定器)の提供があり、定期的に感染チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしております。外出を希望された時は実際に外出が出来る時と出来ないことがあるのでその際は階を移動して気分転換をして頂いてます。	身体拘束適正化の指針を基に委員会と勉強会を3ヶ月毎に行い年2回研修を行っている。議事録はファイリングして事務所で閲覧でき職員に確認印をもらっている。正職員は外部研修等を受けて事業所で伝達研修行い、身体拘束をしないケアの理解と周知徹底を図っている。言葉掛けなどはその都度気付いた時現任教育を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での研修を通してどのようなことが虐待になるのか等を学んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人やあんしんさぼーとを利用しています。家族様が居ない方も居らっしゃるので後見人の方も考えていこうかと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後に変更になったものは書面での説明をしており、分からないことはご連絡頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会に来られたご家族様とは直接お話をさせていただいてます。	利用者は高齢化で居室で寝ていることが多く、家族からはリビングで過ごしてほしいとの意向が寄せられる。居室に居る時はテレビを付けて少しでも刺激があればと望まれており、声かけしてテレビをつけたり、皆の居るリビングルームに誘っている。面会時に生活の様子を伝えて家族の意見、要望を聴いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開き、職員の声を聴くようにしています	職員の全体会議を月末に実施するようにして参加者が多く意見交換ができています。「環境整備をしましょう」の意見が最初に上がり、誰かがきれいに整備していた傘立ての改善や居室のカーテンを開けて換気・布団をたたむ等を共通認識し行うようになっている。個別面談も随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数やその方のレベルに合わせて少しでも出来ることが増えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数やその方のレベルに合わせて少しでも出来ることが増えるように配慮しています。時期を見て初任者研修のお声掛け等もしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一度、GH連絡会に参加し交流を深めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら困りごとや不安がないか情報収集を行い、職員で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や困りごとを常に言いやすいように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の状況を見極め、対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の残存能力を活かせるよう、過保護にならないように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が希望する日に面会をしていただき時間制限も現在はしておらず、満足するまでお話をさせていただいてます。面会時にご本人様の現状をお伝えし、ご本人様・ご家族様・職員が一緒により良い暮らしが出来るよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在出来ていません。	以前は知人が会いに来ていたがコロナ禍で面会も途絶えて現在は誰も来ない、本人からは、どこかへ行きたい、誰かに会いたい等の希望が無くなってきている。病院通院時に車窓から風景を眺めている。面会は予約制で再開し、週2回からいつでも可能にしている。理美容は依頼し来所にて希望者が散髪や顔そりなど受けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせながら対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中にヒントや要望が隠れていると思うのでその要望に少しでも添えられるよう努めています。	利用者とは挨拶を交わして、表情や言葉がないが問い掛けに対して短い返事があったり、何かの表現に気づきを見い出し接している。高齢化と生活認知度が高く、その場で座りながら寝てしまう時は安全に配慮して30分横になってもらう。同じ姿勢は疲れるため体位を変える、少し休んでご飯を食べてもらうなど個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から情報収集を行い、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェック等でその日の心身状態を把握し、大事なことは申し送りで伝えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスや往診時の病院からの意見等を踏まえながら作成しています。	入居時は利用者・家族の意向を聴いて、医師の診察時に現在の状態を聴き、スタッフカンファレンスで検討して現状にあった介護計画を立案している。入居時・病院退院後は1ヶ月の介護計画で様子を観察し変化がない場合は短期3ヶ月・長期6ヶ月間を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活経過やケア実践等は記録に残しています。その他に変更したケア内容は申し送りノートやメモに記載し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な方面からのサービスを模索し、ご本人様に必要なサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	将棋の好きな方に地域での囲碁将棋教室に参加して頂きたいとは思っていますが、まだ参加したことはありません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	あびこ病院と薬剤師の方に月1回、往診に来て頂き、その時に必要な医療を受けれるよう支援しています。体調不良等あれば、緊急時として電話対応してもらい、必要に応じて臨時往診で対応してます。	今までのかかりつけ医を指定する利用者は特になく事業所では協力医療機関から内科は月1～2回、歯科や心療内科の訪問診療は希望者が受診している。訪問看護師(24時間オンコール体制)が週1回訪問しており、体調管理や爪切り、便秘対策等を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護に入ってもらい相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様や往診時にご本人様の状況を尋ねるなどし、いつでも退院できる体制に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は入居直後にかかりつけ医とご本人様・ご家族様・職員立ち合いのもと意向をお聞きしています。	入居時に重度化指針、救急搬送時対応のありかたを説明して意思確認の同意書を交わしている。体調の変化時には、医師より終末期の説明を行い、改めて事業所での看取りの希望があれば、事業所の方針を説明し、家族の協力を得ながら昨年度2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など表にはしているが、定期的な訓練は出来ていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が対応できるようになっていない。地域との協力体制も築いていないので運営推進会議の時にでも協力して頂けるようお声掛けをしようと思います。備蓄が賞味期限でなくなったので改めて備えます。	大阪市の動画訓練以来、新人スタッフには大阪市の、動画訓練参加時の振り返りを口頭にて説明している。法定の年に2回の災害訓練の実訓練は、日中・夜間想定共に行なわれていない。備蓄品は賞味期限が過ぎていることを確認したが、現状新たな備蓄品の確保に準備中である。	災害訓練の実施は定められている行為であり、年2回の避難訓練の実施を望む。法人が作成した、BCP(業務継続計画)のもと新管理者は、まずは地域防災訓練への参加を行い、運営推進会議時には、地域との協力体制の呼びかけを検討している。新たに備蓄品7日分を検討中であり、いずれの検討事項も実行に移すことを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にその方の人格を尊重し、言葉かけには気を付けています。言葉かけが気になる職員にはその都度声掛けをしています。	法人が作成した年間研修計画の基に接遇、尊厳、プライバシー研修が行なわれている。自分がされたら嫌なことを基本に、利用者の呼びかけは”さん”呼び、口調は馴れ馴れしい口調ではなく”です・ます”口調に統一されている。時に気になる職員には管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の自己決定を尊重し、叶えることが出来ることは支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	せっかちの方も居られればマイペースにゆっくりの方も居らっしゃるので、その方のペースに添った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来る方はその日の服装はご本人様で選んで頂いてます。3ヶ月に一度、散髪やカラー(希望者のみ)に来て頂いてます。馴染みの美容院から来て頂いている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の方はお声掛けしても嫌がる方ばかりで参加してもらっていません。食器をお下げて頂いたり、食器を拭いて下さります。	献立付き食材が業者から配達され、職員と調理専門スタッフ(週5回出勤)が手作りして提供している。季節のイベントではお正月にはおせち料理、敬老の日には特別弁当、おやつレクリエーションでは、ネパール職員によるお国料理(チャイ、ラッシー)が提供されることもある。菜園で収穫された季節の野菜が1品食卓に上り職員と共に楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を配達してもらい、職員が手作りしています。その方に合った食事形態や量を調整し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様で磨ける方は始めご自身で磨いて頂き、その後全員の仕上げ磨きを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が取れない方以外はトイレでの排泄を行っています。	排泄は基本車椅子の方でも、立位が取れる利用者には、職員が2人介助にて(3名の利用者)の排泄支援を行っている。現状は布パンツ(4名)、リハビリパンツにパットを交換している。便秘対策(毎朝の牛乳・ヨーグルト)も行いながらの支援体制がある。夜間は熱がこもりやすい利用者には涼しく、微調整を行い安眠対策が取られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量の低下などにより便秘になる方はかかりつけ医で薬を処方して頂いたり、牛乳等で工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方に合った声掛けを行い、その方が納得し入浴して頂けるよう支援するよう努めています。	入浴は基本週2回、一人ひとりお湯の取り換えを行いながら、利用者の体調や希望に沿って行なわれている。足浴をしながらのシャワー浴も行い、季節によりゆず湯で楽しみ、乾燥肌の人にはボディクリームを使い、会話を楽しむ等個々に沿った支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方はご本人様が居室に戻りたい時間までフロアで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で日にち・名前・いつ飲む薬なのか確認後、再度ご本人様の前でも確認しています。 薬に変更があった時は特に異常がないか注意深く観察し、何かあれば報告してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな種類の本などをお勧めしたり、時間がある時はカラオケなどしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家へ帰りたいと仰る方には施設の外を一周していただくなど、その時の状況にもよりますが、外に出て気分転換をして頂いています。	日常的散歩はお風呂のない日には近所のコンビニへ食べたいおやつを買いに行き、おやつ持参で近くの中学校へ桜の花見に出かけしている。事業所内の菜園では野菜が栽培され、水やり、収穫を行い(さつま芋や胡瓜)自然とのふれあいにより、気分転換や日光浴に役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方が安心される方には財布を持ってもらっていますが、基本的には持っていない方がほとんどです。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様・ご家族様の意向で携帯電話を使用されている方は居られます。手紙のやり取りはいらっしやいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け、四季を感じられるような飾りをしたりと工夫しています。	共用空間のリビングでは季節の壁飾りが得意な職員により季節の花や森が表現されている。正月の書初めの習字を飾り、時間のある時にはカラオケや新聞、雑誌を楽しんでいる。テラスの前には長椅子が置かれ換気や掃除に注意しながら居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子の配置や食席を考慮し、工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇などを配置することでご本人様にとって居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。	ベッド・クローゼット、洗面台等が備え付けられ、入居者は担当職員により季節の衣替えが行なわれ、利用者は小ダンス・テレビ・仏壇(大きめの人もある)家族の写真等を、家族と相談して思い思いに持ち込み居心地よく過ごせる工夫がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには大きなカレンダーがあり、日付が分かるようにしています。夜間帯歩行が不安定な方には長椅子を導線代わりに使用するなどの工夫をしています。		